

富山第一高等学校 令和8年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓の「剛健」「練体磨心」を基本理念に、知・徳・体、調和のとれた人材を育てる
(ア) 心身ともに強く健康で、学力・品格ともに備わった人材を育成する
(イ) 課外活動を含め学校生活を通じて社会性と豊かな人間性を育む
(ウ) 生徒個々の能力・適性に意を用いた指導を行い、目指す進路を実現する

2 学校の特徴

生徒数は約 1,200 名で県下最大規模の全日制普通科高校である。1959 年（昭和 34 年）に開校し、卒業生は 3 万 5 千名を超え、各界各層で活躍している。「総合コース」「美術コース」「特別進学コース」「S 特別進学コース」の 4 つのコースを設置し、生徒の適性と希望進路に応じた特色ある教育を行っており、多様な生徒のニーズに応えている。文武両道を標榜し、進学・部活動ともに実績を積み重ねている。

3 学校の現状と課題

近年 9 割を超える生徒が進学するが、自学自習への主体的な取り組みは十分とは言えない。学習習慣の定着と学力の一層の向上は継続した課題である。「わかる」ことの楽しさに気付き、自ら「学び」を求める生徒の育成に努めたい。就職を目指す生徒は減りつつあるが、就職内定率は 100%を維持している。

コロナ禍に低下した部活動加入率も回復しつつあり、熱心に打ち込む生徒が多く、複数の運動部が例年全国大会に出場している。また、文化部も全国を舞台とする大会やコンクールで多くの生徒が入選・入賞しており、学校全体に活気がある。

生徒が学力、体力、道徳、社会性を身に付け、調和のとれた有為の人材として社会に貢献できるよう、生活指導を基本にきめ細かな指導を心掛けている。

社会の情報化が進む中、全校生徒が自身の端末を持つようになって 7 年が経つ。学校と家庭との連絡や、授業での ICT 活用を進めているが、十分に活用できているとは言えず、教員研修を行いスキルの底上げと、生徒の活用習慣の定着に向けた努力を続けている。また、自然災害や学級閉鎖などに備え、万一の時に生徒の学びを止めないよう、オンラインデーを設けてオンライン授業を実施し、教員も生徒も対応できる環境づくりに努めている。

素直な生徒が多いが、自ら考え主体的に動けるとは言い難い。生徒の課題解決能力を育むため、探究活動の充実に取り組むとともに、生徒会活動の活性化を進め、主体的・協働的な生徒の育成を目指している。

4 学校教育計画

重点課題 1 学習活動（教務部）

目 標	①ICT を活用した授業および家庭学習の定着 ②本校の実態に即した評価方法の確立
-----	---

現 状	①デジタルコンテンツを利用した授業や Google Classroom, Classi を使った生徒・保護者とのコミュニケーションは軌道に乗ってきたと思われる。しかし、全員がデジタルツールを効率的に活用できているとは言えず、研修を通してスキルアップの機会を確保する必要性が生じている。 ②現行の教務規定となつて3年が経過し、教員の中から、必ずしも生徒の学力伸長につながっていないのではないか、クラスや生徒個人の実態に合っていないのではないかといった声があがっている。
方 策	①オンラインデーの前に、全教職員対象の教員研修を開催する。この研修会を通して、常勤・非常勤の区別なく、授業を行う者すべてがオンラインでの授業を滞りなく行えることを目指す。 ②昨年度末に教科主任を中心とした評価に関する委員会を開いた際の意見を教務で集約した。今後、これを基に各教科部会及び評価に関する委員会で議論を重ね、教務規定の見直しを図る。

重点課題2 探究活動（探究科）

目 標	生徒の多様な進路希望に即した探究カリキュラムの充実化により、社会を生き抜く課題解決力を磨くとともに、生徒一人ひとりが自らの可能性を広げ、最適な進路選択につなげられるようにする。
現 状	①前年度は2年美術コースで独自に大学との連携を進めた結果、より質の高い学びにつなげることができた。一方、他のコースは統一的な設計であり、コースの特色に応じたプログラムとはなっていない。 ②教員の指導力が向上してきたため、率先して新しい活動に取り組みたいという要望も生じている。 ③教室での学びを社会の諸課題と結びつけるために、外部との連携を進める必要がある。
方 策	①2年次のPBLにおいて、2学年特進・S特進独自の講座を設定することで、実践的な課題解決力を養う。 ②新たな取り組みに関する提案を支援し、新規カリキュラムの設計につなげる。 ③企業連携活動を発展させ、より実践的なカリキュラムに充実させる。

重点課題3 学校生活（第1学年）

目 標	高校生活の土台としての基本的生活習慣の確立
現 状	①高校入学から間もない1年生は新しい環境への期待と同時に、不安を抱える生徒も少なくない。 ②友人関係の構築や生活リズムの変化に戸惑う姿も見られ、基本的生活習慣が安定しない生徒も一部に見受けられる。
方 策	①年度初め、学期はじめなど、「みそあじ」を合言葉に定期的に基本的生活習慣の重要性を繰り返し伝える。

	②生徒一人ひとりの不安や課題を早期に把握するため、日ごろの声かけや問題行動発生時の声かけを重視し、教員間での情報共有を行い、生徒の状況にあった指導をおこなう。 ③笑顔で温かい対応を心掛け、安心して相談できる関係性を構築する。
--	--

重点課題4 生徒指導（生徒指導部）

目 標	①生徒の心身の健康や多様性を尊重し、柔軟な生活指導を推進する。 ②管理型指導から、生徒が校則の意義を理解し主体的に行動できる「理解・支援型」の生徒指導へ転換する。 ③生徒・保護者の意見を取り入れ、社会の変化に応じた開かれた学校づくりを推進する。
現 状	①頭髪・服装指導において、形式的・画一的な運用が残り、多様性や健康面への配慮が十分とは言えない。 ②校則が管理的に受け取られ、生徒が目的や必要性を理解する機会が不足している。 ③定期的に頭髪・服装検査を行っているが、一時的な指導となりやすく、主体的な自己管理意識の育成につながっていない。
方 策	①式典等では正装を基本としつつ、日常生活では体調や気候、TPOに応じた適切な服装選択ができる力を育成する。また、生徒・保護者の意見を踏まえ、社会の変化に応じた校則の見直しを進める。 ②頭髪・服装指導では、形式のみを重視するのではなく、「清潔感」や「学校生活への適切さ」を重視し、生徒が自ら考え判断できる力や自己管理能力を育成する。 ③「頭髪・服装検査」に加え、日常的な対話や声かけを通じた継続的な「身だしなみ指導」を重視する。また、家庭と連携しながら、「管理・指導」から「理解・支援」を重視した予防的・開発的生徒指導への転換を図る。

重点課題5 生徒会活動・特別活動（生徒会部活動振興部）

目 標	生徒会活動，学校行事，ボランティア活動等を通し，主体的に活動できる生徒の育成
現 状	生徒会改革3年目となったが，生徒が自信をもって各行事を運営するところまではできていない。教員がどこまで入り指導するかがポイントとなるものと思われる。
方 策	今年の大きな動きとして体育大会実行委員会(生徒主体)のスタート年にあたり計画的かつ意欲的にマイナーチェンジを行い，時代感を反映させた体育大会の実施につなげたい。その為に，生徒会部活動振興部と体育科が綿密に連携をとりサポートを行う。 また，文化祭では生徒の満足度を高める上で2年生希望者によって行う催事が重要であると考え，1学期からの周知徹底を図りたい。

重点課題 6 保健指導（保健部）

目 標	①生命を尊重し、生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒の育成 ②感染症予防対策の実践力の向上 ③学内の衛生環境の改善
現 状	①スポーツが盛んで、災害発生件数（2025 年度災害発生者数は 114 名、発生率 9.8%, 大きな災害も含まれる）が多い。 ②防災教育、安全教育、健康教育等、生徒が生涯を通じて健康な生活を送るために必要な教育を受ける機会が少ない。 ③全国的にも様々な学校感染症が流行しており、集団での感染予防対策が必要である。
方 策	①保健委員会の活動を通じて、生徒が主体的に健康を管理できる資質を養うと共に、感染症予防対策の実践や学内の衛生環境の改善を図る。 ②感染症予防や衛生環境の重要性について、保健だよりや委員会活動等を通じて啓発活動を継続する。 ③学校行事やホームルーム等を利用して、性教育、薬物乱用防止教育、防災教育、救命講習等を行う。

重点課題 7 進路支援（進学指導部）

目 標	①入試改革に伴う入試制度及び大学入学共通テストの情報収集と分析、生徒への発信 ②動画配信等、オンライン教材の活用による生徒の基礎学力の向上 ③多様化する入試情報の迅速かつ正確な発信
現 状	①入試制度の変化が早く、対応が遅れる教員や生徒が見受けられる。 ②それぞれの生徒が目標とする進路先の、選抜方法に合わせた対策や学力向上が求められる。 ③進路目標の決定が遅く情報収集や対応が遅れ、直前になって準備に追われる生徒も多い。早い段階からその学年に応じた指導が必要である。
方 策	①大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し、各学年の担任に校内 LAN などを活用して適宜配信し、情報の共有を図る。 ②各種学校や業者から送付されてきた資料は、校内 LAN を活用し、担任を通じて生徒に配布できる環境を整える。 ③各学年に応じた適切な情報を配信する。 1 学年：2 年次に選択する系の情報に加え、1 年次から受験を意識できるような情報の提供 2 学年：各種学校の設置する学問分野の情報に加え、入試制度に関する情報の提供 3 学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度の状況に関する情報の提供

	④生徒の進路志望調査をもとに、複数の教員が共通理解を持ち、進路実現につながる指導を行う。 ⑤スタディサプリーやチューター制度を利用し基礎学力の向上を図る。 ⑥動画配信を利用した大学の講義を見たり、大学の教員と直接話したりすることによって、志望進路の具体化につなげる。 ⑦受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し、情報提供を行う。 ⑧生徒が進路意識や学習に対するモチベーションを高め、早期に進路目標を設定できるように、「進路ガイダンス」や、大学・短期大学・専門学校などの担当者より直接入試に関する情報を得る場として「TOMIICHI 進路フェスティバル」を実施する。
--	---

重点課題 8

情報発信（総務部 広報課）

目 標	①本校の魅力、教育活動を、受験生とその保護者に伝える。 ②中学校教員と良好な関係を築き、情報交換を効率的に行う。
現 状	①本校の教育活動が、十分に受験生とその保護者に伝わっていない。 ②中学校訪問回数の減少に伴い、本校募集担当者と中学校担当者との情報交換の機会が減少している。
方 策	①-1 公式インスタグラムを活用し、本校の教育活動を発信し、より多くの人に見てもらう。 ①-2 本校ホームページの記事投稿を増やし、ホームページへの訪問回数を増やす。 ①-3 富一通信を年間4～6回（回数は状況に応じて）郵送し、中学校での掲示を依頼する。デザインを見直し、中学生の興味を引き付けられるものにする。 ②訪問時期毎の目的を明確化し、効率的な情報交換の機会とする。 1回目（5月）：夏のオープンハイ告知 2回目（9月～10月）：秋のオープンハイ告知、入試情報提供 3回目（2月）：合否結果持参、入試動向調査